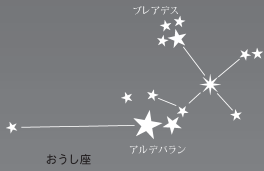


ポラリスを仰ぐ北の大地から



地域医療に思うこと

胆振西部医師会 会長 坪 俊輔

新しい病床機能区分はどのようなのだろうか？まだ具体的には何も見えてこない。当医師会（伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）内の唯一の総合病院は伊達赤十字病院である。隣の室蘭市には3総合病院がある。急性期医療の割り振りは上手くいくのだろうか、伊達赤十字病院は今の規模で続けられるのだろうか、室蘭の3病院も現行でいけるのだろうか、この地区の各医療機関がそれぞれの目指す医療を続けられるのだろうか、考え出せばきりがない。

伊達市では65才以上の高齢者人口が30%を超えた。市は“ウェルシーランド構想”を掲げ、伊達市への国内移住を積極的に勧誘しながら高齢者が安心・安全に住める街づくりを進めている。当地域では介護・福祉事業が生活産業となっており、当然医療も深い関わりを持たざるを得ない。

新しい病床機能区分が当地域の医療・介護・福祉の連携、地域の経済構成（生活産業）に大きな影響を与える可能性は高いと思われる。そして高齢化の波は、私を含め当医師会にも確実に押し寄せている。山積する難問の解決に、若い先生方の積極的な参加を切に希望している。



春の叙勲に思うこと

日高医師会 会長 小松 幹志

今年の春、当医師会会員である静和会石井病院院長の石井隆司先生が瑞宝小綬章を受章されました。石井先生は昭和45年に浦河赤十字病院精神神経科部長に就任されその後、昭和48年に静内町（現新ひだか町）に石井病院を開業されました。以来42年にわたり日高管内の地域医療の礎を築いてこられました。また地域においての公職歴も数多くあり医療関係だけでなく、地域福祉や地域のスポーツ振興にも大変力を注いでこられたことが評価されたと聞いております。医師会活動も昭和54年から59年までを副議長、平成3年から16年まで副会長を勤められ、平成22年までは理事として、そして現在も第一線でご活躍されております。

先日、先生の受章祝賀会に招待され、その中で、開院時から現在に至るまでのスライドショーを拝見しましたが、当時の風景を見ると病院の周囲には家一軒見当たらない、田んぼの真ん中にぽつんと病院だけが建っているようでした。その光景を見たとき地域で医療を行うときの意気込みや覚悟というものがひしひしと感じられました。私自身も医療だけでなく、地元根ざした地域の文化・スポーツの発展などにもかかわることができるようにがんばらなければと痛感いたしました。

日高管内も医師や看護師不足だけでなく医療資源そのものが不足しています。これは慢性的なものですがこの現状を何とかしなければならぬと考えいろいろなレベルでの病病間または病診間連携を密にとり、お互いに不足している部分を補い、日高全体の医療の質を底上げしていきたいと考えております。そして地域に根ざした医療を行い、その情報を外に向けて発信し続けることで少しずつでも医療資源を充足できないものかと考えております。

最後に石井先生の叙勲受章を心よりお祝いし、末永いご健康とますますのご活躍を祈っております。

